

第101回 二足の草鞋で駆け抜けた 作詞家人生

朝のワイドショーとして20年続いているフジテレビ『とくダネ!』の司会者・小倉智昭が、今から40年前、30代前半当時にナレーションを担当していた『アイ・アイゲーム』というクイズ番組がありました。日曜の夜10時からという時間帯でもあって、司会の山城新伍が放送禁止を思わせる言葉を「チョメチョメ」と表現したことで話題になりました。

その番組の制作スタッフに元フジテレビのディレクターだった林良三なる人物がいました。林は、同局在籍時に『ザ・ヒットパレード』のディレクターだった6歳年長で義兄にあたる、すぎやまこういちの薫陶を受けます。

昭和40年代前半、すでにタイガースなどに楽曲を提供していてヒットメーカーになっていたすぎやまは、ある時、林に歌謡曲の作詞をすすめます。フジテレビ草創期にすぎやまが手掛け、人気を博した『おとなの漫画』の構成・脚本を担当していた青島幸男や永六輔が作詞者として活躍

するのを見ていたこともあったのでしよう。すぎやまのすすめで最初に書き下

ろしたのが、昭和43年に発売されたいしだあゆみの『太陽は泣いている』のB面曲『夢でいいから』でした。この曲は隠れた名曲として知られ、多くの歌手によってカバーされていますが、「作詞・林春生」としてレコード盤に刻まれた最初の曲でした。2年後の昭和45年、渚ゆう子に提供した『京都の恋』『京都慕情』（曲・ベンチャーズ）が大ヒットし、林の名は業界で広く知られるようになります。33歳、まだ林良三としてフジテレビ在職中のことでした。

続いて欧陽菲菲の『雨の御堂筋』をヒットさせた後、『なのにあなは京都へゆくの』でデビューしたチエリッシュ（当時はまだメンバー5人のグループ）の第2弾『だから私は北国へ』以降のシングル両面に詞を提供、チエリッシュ人気を不動のものにしていきます。

第3弾『ひまわりの小径』（詞・林春生）は、リズムカルでありながら哀愁漂うメロディー（曲・筒美京平）によって、「あなたにとっては突然でしょう ひまわりの咲いてる径で出逢ったことが」の冒頭の歌

詞がいつそう際立つことになりました。この曲からデュオとなったチエリッシュのボーカル、悦ちゃんの訴えるような歌声が、半世紀を経た今でも身に沁みます。「突然」「偶然」に思われた出来事が実は仕組まれたものだったという、女心を描きつつ人生の裏表を示唆する奥深さもあり、歌詞・曲・歌唱と3拍子揃った名曲ですね。

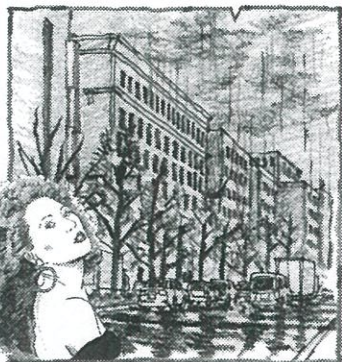
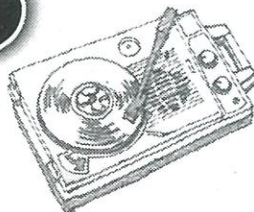
この曲を生んだ林春生・筒美京平コンビですが、代表作を選ぶとなると、昭和44年に放送開始されたTVアニメ『サザエさん』のテーマとエンディング曲も候補になるでしょう。渚ゆう子の『京都の恋』が発売される半年ほど前、ベンチャーズのメロディーに詞をつける作詞家として林に白羽の矢が立ったのは、ベンチャーズが所属していた東芝EMIが『サザエさん』を一社提供していた

東芝の傘下にあったことも影響していたのかも……。平成7年57歳で没した林ですが、二足の草鞋から生み出された歌は、今でも毎週、私たちが笑顔にしてくれています。

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵・松本浦



昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。『私的「昭和 대중歌謡考」』第4集『しあわせになるうね』（グスコー出版）が好評発売中